

事業所名

児童発達支援センターなないろ軽井沢

支援プログラム（放課後等デイサービス）

作成日

2025 年

2 月

1 日

法人（事業所）理念		障害のある子どもが身近な地域で適切な支援が受けられるように「18歳後を見据えた支援」を関係機関や地域と協働で創ります。							
支援方針		1. 児童発達支援の実施 2. 保護者、社会資源との連携 3. 相談体制の充実							
営業時間		(平日) (休校日)	下校 9	00 00	分から 17 16	時 30 00	分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	(1) 健康状態の維持・改善：保護者や連絡帳を通じて自宅・学校での体調を確認する。活動中の観察を行い心身状態の把握に努める。(2) 基本的な生活スキルの獲得：ADLや身辺整理等の指導を実際の場面で実施する。特性に配慮した視覚支援や環境の構造化する。基本的な生活習慣の獲得や形成を支援する。(3) 医療的なケアを要する場合は、療育プログラムに参加できるよう検討を行うと共に、可能な医療的ケアを実施する。							
	運動・感覚	(1) 姿勢と運動機能の向上：運動遊び（スイング、トランポリン、サーキット等）を利用して、感覚の統合を図る。(2) 感覚の総合的な活用：各感覚が統合されるよう運動遊びや個々の課題を実施する。子どもの持つ感覚の特性を把握し、遊びを通じて、全身の様々な感覚の発達を促す。(3) 身体図式・身体機能の向上：身体遊びを通じて身体図式の改善を図る。児童にあわせた強度の運動を通じて身体機能や体力の向上を図る。							
	認知・行動	(1) 認知の発達と行動の習得：マッチング課題、構成課題、触覚遊び等を通して、認知機能の発達を促す。(2) 空間・時間、数などの概念形成の習得：発達段階に応じた数や時計、時間の課題を提示する。(3) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得：スケジュールの視覚化、環境の構造化を取り入れ、誰にでもわかりやすい活動空間にすることで、適切な行動を促す。							
	言語 コミュニケーション	(1) 言語の形成と活用：季節の歌、絵本の読み聞かせ等を通じて、様々な言葉に触れる機会を提供する。活動の中で本人の感覚を言語化することにより、体験と言葉を結び付ける。(2) 言語の受容及び表出・コミュニケーション手段の選択と活用：言語によるコミュニケーションに加え、指差し、ジェスチャーなども含めた非言語コミュニケーションも活用する。(3) コミュニケーションの基礎的能力の向上：コミュニケーションの基礎となる、注目・追視・動作模倣、共同注視等を促す。							
	人間関係 社会性	(1) 他者との関わり（人間関係）の形成：安心して周囲の人間と関われるような環境を作り、愛着の形成を図る。できることや苦手なことに気付くとともに、気持ちをコントロールできる方法を検討する。(2) 自己の理解と行動の調整：必要時に行動を振り返ることで、自己理解を促し、適切な行動の獲得を図る。(3) 仲間づくりと集団への参加：小集団活動を通して、ルールの理解や適切な振る舞い、社会性を学べるよう支援する。外出活動等を設定し、公共の場でのルールを知る経験を積む。							
家族支援		(1) 子どもの発達状況や特性の理解に向けた相談援助 (2) 子育ての困りごとへの相談援助 (3) 保護者会の実施				移行支援		(1) 進路先や移行先への相談援助や情報提供 (2) 併用利用先や園・学校との情報共有	
地域支援・地域連携		(1) 保育園・幼稚園や学校、行政、他事業所との情報連携 (2) 医療機関との情報連携や調整 (3) ボランティアの協力				職員の質の向上		(1) 外部研修。(2) 法人・事業所職場内研修。(3) ケース検討会。 (4) 他機関主催の研修への参加。(5) 利用者アンケート、自己評価の実施。(6) 関係機関との合同研修。	
主な行事等		(1) 長期休暇には買い物体験や外出体験等。(2) 避難訓練・防災訓練・不審者対策訓練を毎月実施。(3) 季節の行事：クリスマス会・川遊び等。							